

第 114 期

業務のご報告

2022年4月1日～2023年3月31日





理事長 森山 博志

平素の当金庫への変わらぬご愛顧とご支援に、心より厚くお礼申し上げます。

昨年の日本経済は、急激な円安や国際的な資源価格の高騰に伴い、40年ぶりの高い物価上昇幅を記録しました。欧米各国では中央銀行が急激なインフレを抑制するため金融引き締め動きを強め、日本銀行においても長期金利の変動許容幅を0.25%程度から0.5%程度に引き上げるなど世界的に金融政策の動きが見られる状況となりました。

このようななか当金庫は、「地域の課題は当金庫の課題である」との認識のもと、事業者のみならず、資金繰り支援をはじめとして、創業支援、本業支援、経営改善支援、事業承継支援など、多彩な経営サポートメニューを取り揃え、そのご提供に取り組むとともに、個人のお客さまには、ライフサイクルに沿った各種商品・サービスのご提供に努めてまいりました。

また、2020年に制定した「ちょうししんきんSDGs宣言」をもとに、行政等と連携した地域の高齢者の見守り活動や、小・中学生を対象とした金融教育の実施など、地域社会への貢献活動に取り組んでまいりました。

2023年は、新型コロナウイルス感染症が再拡大する懸念は残るものの、感染症法上の分類引き下げにより経済活動の正常化が見込まれ、内需主導による景気回復が期待されています。一方で、原材料価格高騰、人手不足などの懸案事項に加え、デジタル社会への移行や脱炭素化など、対処すべき課題は多岐にわたっており、地域金融機関の果たすべき役割の重要性は益々高まってきています。

当金庫では、中期経営計画「Shinking 2030」（2021年度～2023年度）において、地域で最も身近な「ファーストアドバイザー」として、お客さま・地域の課題解決に貢献することにより、圧倒的な信頼を獲得することを「目指す姿」として掲げています。

この「目指す姿」の実現に向けて、引き続き、社会・経済環境の変化に応じた迅速なサービス・情報のご提供、人材育成などの態勢整備に取り組み、地域金融機関としての使命をより一層果たせるよう努めてまいります。

今後とも当金庫への変わらぬご愛顧とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年6月吉日

当金庫の概要

2023年3月末現在

創業

1910年（明治43年）7月

出資金

9,934百万円

会員数

31,832名

本店

千葉県銚子市双葉町5番地の5

店舗数

28店舗（千葉県内24店・茨城県内4店）

役職員数

409名

預金

5,266億円

貸出金

1,623億円

自己資本比率

10.66%



銚子信用金庫業務地区

千葉県 銚子市、旭市、匝瑳市、茂原市、勝浦市、千葉市、東金市、成田市、市原市、香取市、習志野市、八千代市、船橋市、木更津市、市川市、袖ヶ浦市、白井市、四街道市、佐倉市、八街市、鴨川市、印西市、富里市、いすみ市、山武市、大網白里市、山武郡、長生郡、夷隅郡、香取郡、印旛郡

茨城県 神栖市、鹿嶋市、潮来市、行方市、鉾田市

経営理念

地域の最良のパートナーとして、常に地域と共に歩む。

柔軟で創造性の高い組織力を発揮し、地域金融機関としての使命を全うする。

秀れた人材を育成し、豊かで活力あふれる未来を創造する。

ビジョン

地域のニーズに応え、最良のサービスを迅速に提供する。

地域社会の豊かな発展を実現するトータルアドバイザーとして信頼度No.1を目指す。

揺るぎない経営基盤を確立し、信用金庫としての社会的使命を遂行する。

環境の変化に応じて自己革新できる柔軟な組織を目指す。

将来を見据えた人事政策、能力主義人事の徹底により秀れた職員を育成する。

自由闊達で想像力と活力にあふれた働きがいのある信用金庫を目指す。

行動指針

私たちは地域社会の一員として誇りをもって行動します。

私たちは積極かつ迅速に行動します。

私たちは何事にも信念をもって行動します。

私たちは明るい笑顔、感謝の心をもって行動します。

私たちはより高い目標に向かって行動します。

経営方針

2021年4月にスタートさせた新三か年計画「Shinking2030」では、「当金庫が5～10年後に目指す姿」を定めました。そして、その実現に必要な優先度の高い6つの重点事項を掲げて、トライアル＆ランを繰り返しながら、目指す姿に近づいていくこととしています。

“ちょうしんきんならではの”の活動をとことん追求し、お客さま・地域の課題解決に貢献しながら、地域との持続的な発展を目指してまいります。

Shinking 2030

5～10年後に目指す姿

課題解決サポート体制を“ちょうしんきんならではの”の課題解決プラットフォームへと進化させ、最も身近な「ファーストアドバイザー」として、お客さま・地域の課題解決に貢献し、圧倒的な信頼を獲得する。

どのような状況にあっても前向きにトライアル＆ランを繰り返し、知恵を集め共有しながら、絶えず柔軟に変化し続ける創造性の高い組織になる。

「人財を育む力」を“ちょうしんきんの強み”にまで高め、地域のみなさまと共に、豊かで活力あふれる地域社会を創る。



重点事項

課題解決サポートの進化

お客さまアプローチの進化

利便性・業務効率の向上

組織風土の変革

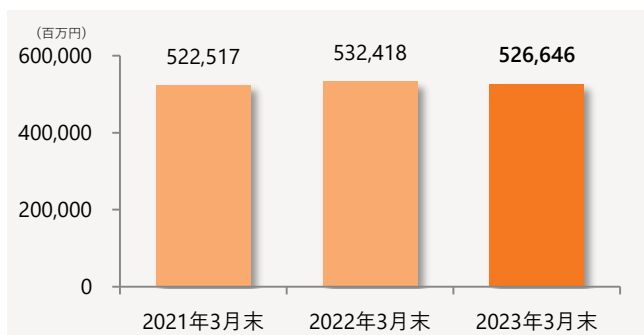
人財力の最大化

経営資源の効率運用

2022年度の営業概況

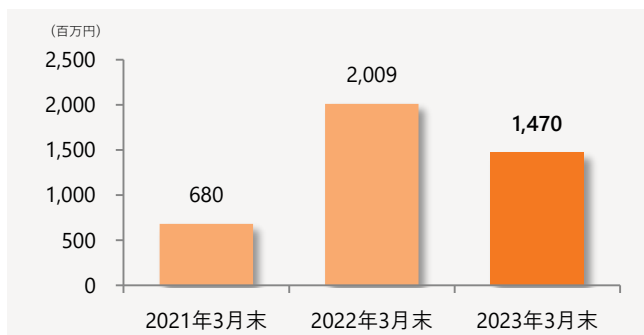
預金積金

預金積金は、個人の流動性預金は増加した一方、定期性預金の減少により、前期比57億円減少の5,266億円となりました。



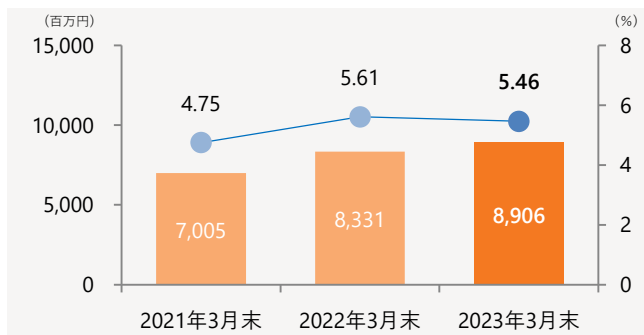
当期純利益

資金運用収益および役務取引等収益が順調に増加した一方、その他業務費用の増加等により、当期純利益は前期比539百万円減少の1,470百万円となりました。



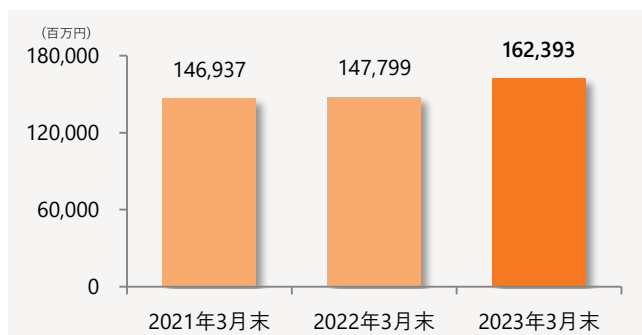
不良債権

毎期年度当初に策定する不良債権処理計画に基づいて処理を進めるとともに、事業再生や経営改善等の支援にも積極的に取り組んでいます。不良債権額は前期比574百万円増加の8,906百万円となりましたが、貸出金の増加等により、不良債権比率は0.15ポイント低下の5.46%となりました。



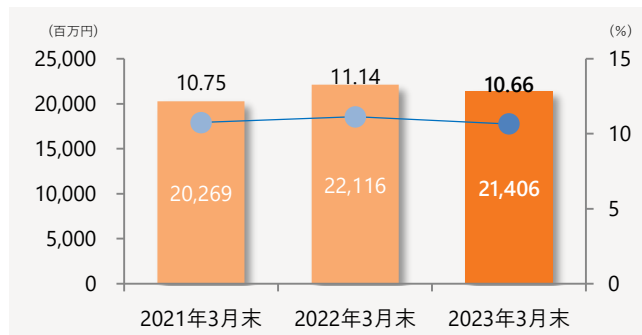
貸出金

貸出金は、課題解決に着目したご融資のご提案に加え、各種個人向けローンのご提供、地公体等向け融資の推進などにより、前期比145億円増加の1,623億円となりました。



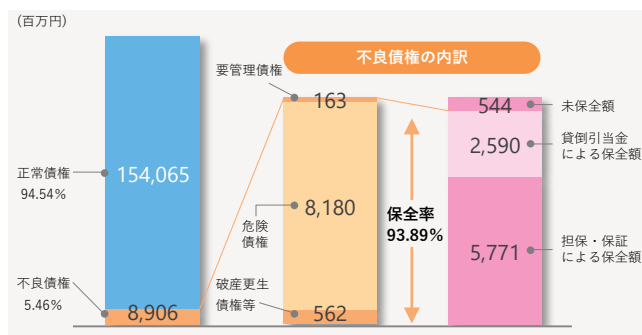
自己資本

当期純利益を確保する一方、優先出資2,100百万円の一部買入消却を行ったことから、自己資本額は710百万円減少し、自己資本比率は前期比0.48ポイント低下の10.66%となりました。



金融再生法開示債権

不良債権はすべてが損失につながるわけではなく、担保・保証および貸倒引当金により93.89%がカバーされています。また、保全されていない金額（約5億円）についても、自己資本によりカバーされており、不良債権が経営に与える影響は極めて小さいものとなっています。



第114期 剰余金処分計算書

2022年4月1日から
2023年3月31日まで／単位：円

科 目	金 額
当 期 未 処 分 剰 余 金	1,561,170,278
剰 余 金 処 分 額	438,522,356
利益準備金	148,000,000
普通出資に対する配当金（年1.0％）	24,322,356
優先出資に対する配当金（年0.7％）	46,200,000
特別積立金	220,000,000
（優先出資消却積立金）	（220,000,000）
繰 越 金 （ 当 期 末 残 高 ）	1,122,647,922

以上のとおりご報告いたします。

2023年6月16日

銚子信用金庫

理 事 長	森 山 博 志	理 事	伊 藤 浩 一（※1）
専務理事	一之瀬 訓靖（※1・3）	理 事	大 里 忠 弘（※1）
常務理事	飯 島 良 春	理 事	川 嶋 義 夫（※1）
常務理事	高 橋 豊	理 事	阿 部 典 義（※1）
理 事	越 川 晴 行	理 事	木 村 栄 宏（※1）

以上の各項を調査し、その正確なことを認めます。

監 事	田 向 一 男
監 事	木 村 豊（※2）
監 事	近 藤 典 子（※2）

（※1）の専務理事および理事は、信用金庫業界の「総代会の機能向上策等に関する業界申し合わせ」に基づく職員外理事です。

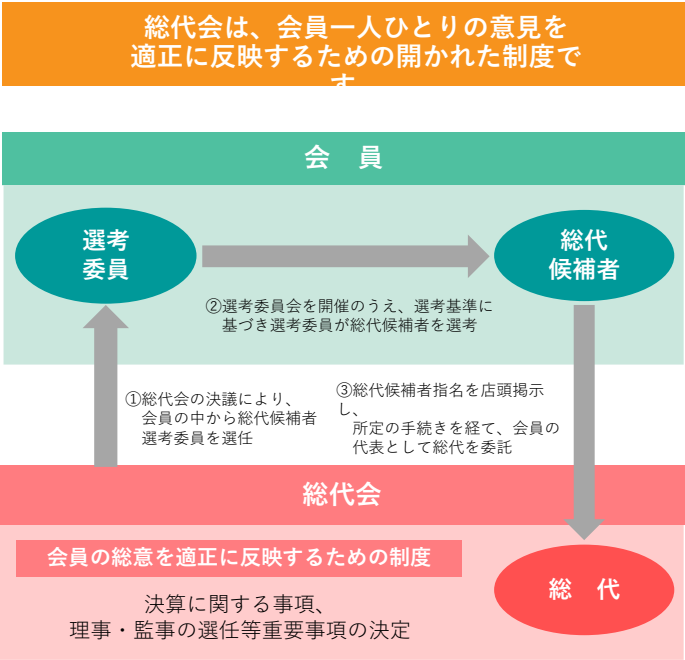
（※2）の監事は、信用金庫法第32条第5項に定める員外監事です。

（※3）の専務理事は、第114期通常総代会終結時点をもって退任しました。

総代会制度

信用金庫は会員一人ひとりの意見を尊重し経営に反映させる協同組織の金融機関です。

当金庫では、会員の意見を適正に反映し充実した審議を確保するため、会員の中から選任された総代により運営される総代会制度を採用しています。



出資に関するお知らせ

- 出資とは
- 配当金について
- 出資の譲渡（脱退）について
- 当金庫の業務地区外に転居なされた方へ

ちょうしんきんSDGs宣言

ちょうしんきんは、経営理念に掲げる「地域の最良のパートナーとして、常に地域とともに歩む」を活動の根源に据え、地域の課題は当金庫の課題であるとの認識のもと、その課題解決に積極的に取り組み、地域の持続的な発展に貢献してまいります。

SDGs重点事項に関する主な取り組み状況

旭ウレシイ商談会

5回目となる「旭ウレシイ商談会」を、2022年11月11日（金）に旭中央支店で開催しました。当日は11先の事業者の方々に参加いただき、34件の商談が行われました。



地域経済の
持続的な発展

金融教育出前授業

「お金の使い方を学ぼう！」をテーマに、銚子市内小学校5校で金融教育出前授業を行い、延べ151名の児童にお金の役割や使い方について学んでいただきました。



豊かな
地域社会の実現

環境保全活動

例年実施している銚子市の君ヶ浜海岸清掃に加え、各営業店で地域の環境保全活動を行いました。



地域環境の
保 全

SDGs推進チーム

入庫2年目の職員を中心に“SDGs推進チーム”を組成し、金庫内外にSDGsを浸透させるための活動を開始しました。



ガバナンスの
強 化

SDGsとは、

「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。2015年9月に国連サミットにおいて全会一致で採択された2030年までの国際目標で、「誰一人取り残さない」を基本理念とし、持続可能で多様性と包摂性（社会のすべての人に配慮を払うこと）のある社会の実現を目指すものです。

「すべての人に健康と福祉を」や「住み続けられるまちづくりを」など持続可能な世界を実現するための17のゴールと、それらのゴールごとに設定された169のターゲット（個別目標）で構成されています。



2022年	
4月	2022年度入庫式（新入職員27名）
5月	高齢者見守り活動として高齢者見守りシートの運用開始
	富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社とIT導入による経営課題解決を目的とした業務提携契約を締結
	ライフサポートチームによる提案活動を全店にて開始
	第32回若手社員研修会開催
6月	「第113期通常総代会」開催
7月	認知症サポーター養成講座の実施
9月	積水ハウス株式会社と顧客紹介に関する業務提携契約を締結
	「退職金専用定期預金」「相続定期預金」の取扱期間を延長
	「しんきんiDeco」の取り扱い開始
	銚子市内の小学校5校で金融教育出前授業を実施
	銚子市の「災害時協力井戸」として橋本支店・松岸支店を登録
10月	銚子地区・東金地区「ウレシイくらしのセミナー（終活セミナー）」開催
11月	夷隅地区「ウレシイくらしのセミナー（終活セミナー）」開催
	防災訓練実施
	第5回「旭ウレシイ商談会」開催
	昭和信用金庫主催「第9回T O K Y O三ツ星バザール」参加
12月	「ちょうししんきん経営塾21」「ビジネス知恵袋」会員合同セミナー開催
	城南信用金庫主催「よい仕事おこしフェア」参加
2023年	
3月	「地方創生に資する金融機関等の『特徴的な取組事例』」に選定され内閣府特命担当大臣（地方創生担当）より表彰を受ける